

私たちはSDGsとつながっている！ 私たちの生活とごみから、消費者としての行動を考えよう

『SDGs』のフレーズを見たり聞いたりする機会が増えたと感じませんか？「より豊かな世界の実現」のため、みんなで取り組んでいく目標を定めているものですが、「自分には関係ない目標」だという人もまだまだ多いようです。

私たち一般消費者にとって、SDGsという未来に向けての目標は、あまり身近に感じないかもしれませんが、私たちとSDGsはどのようにつながっているか、私たちの生活、私たちのごみ箱から考えてみませんか。



私たちのごみ箱はSDGsの世界とつながっています。私たちが生活していれば、必ずごみは発生します。例えば、2016年におけるプラスチックごみは、世界では約2億4200万tが排出されており、適切に処理されずに海に流出したプラスチックごみは、海のごみの90%を占めているそうです。これらは、海洋生物、漁業や観光産業などの経済面にも影響を及ぼし、さらに有害化学物質が人体への健康影響も懸念されます。

また、先進国はコストの面から処理しきれなくなったプラスチックごみが、発展途上国に運びこまれ、児童労働や地滑りなどの問題を発生させています。さらに廃棄物からの温室効果ガスも気候変動の主な要因の一つとなっています。

こうしたプラスチック問題の背景には、先進国と発展途上国の格差、企業のものづくりや消費者の購買行動のあり方などの課題があるのです。

【消費者へのアドバイス】

- 私たちのごみ箱がどのようにSDGsとつながっているかを考えてみましょう。そこから本当に必要なものは何かを考えると、賢い消費者として選択していくこと、分別をきちんと行うこと、日常の一つ一つの行動がSDGsにつながっていきます。
- ごみではなく適正に処理をすれば、価値のある「資源」として、再び活用していくことができます。ごみと資源を区別し、ごみをなくす取り組みをしましょう。
- そもそもごみを発生させないことは大切ですが、リサイクルしやすい素材で作られた製品を購入することや、リサイクル製品を積極的に購入するなど、消費者の役割が重要であることから、普段から自分にできる行動でSDGsに貢献しましょう。

[参考文献：国民生活_2021.1（国民生活センター発行）]

消費生活相談のことなら・・・

- 岐阜県県民生活相談センター 058-277-1003
- 輪之内町消費生活相談窓口(住民課) 0584-68-0185
- 消費者ホットライン ^{いやや} ☎188